

令和6年3月21日

静岡県社会部記者室、浜松市政記者室 御中

国立大学法人静岡大学
静岡理工科大学

「国際連合大学学長特別講演会」の開催について

今日、ChatGPT に代表される AI 技術は、さまざまな場面で活用されています。これらの技術は、人間が行ってきた仕事を担うことにより、労働時間を短縮したり、個人に最適化された教育を推進するなど、さまざまな形で SDGs を推進し、誰一人取り残さない社会の実現に寄与すると考えられています。

しかし他方で、AI をめぐっては、高度な兵器に利用されるのではないかと、偏ったデータに依拠することで偏見を拡散させるのではないかと、といった懸念も示されています。AI が持つこうした負の側面を避けながら、その恩恵を享受するための方策が求められています。

そこで今回、ともに SDGs の推進に取り組む静岡大学と静岡理工科大学は、この問題への理解を深めるために、AI の研究者として、この技術の適切な利用に関して考察を続けてきた国際連合大学学長チリツィ・マルワラ氏をお招きし、「AI と SDGs : テクノロジーは雇用と教育をどのように形作るのか」と題する講演会を下記のとおり開催することになりました。

報道機関の皆様におかれましては、ぜひ、事前の周知と当日のご取材をいただきますよう、ご案内方々、お願い申し上げます。

記

日時：2024年4月18日（木） 14:30～16:00

会場：SIST グループ静岡駅前キャンパス4階（静岡市葵区御幸町20番地M20）

参加費：無料（事前申込制）

対象：SDGs や AI に関心のある方

講師：国際連合大学学長・国際連合事務次長 チリツィ・マルワラ氏

演題：AI と SDGs—テクノロジーは雇用と教育をどのように形作るのか—

※申込方法、プログラム等の詳細は別紙案内をご参照ください。

以上

<本講演会は、SIST グループ静岡駅前キャンパス開設後初のイベントとなります。>

お問い合わせ先

部局名 静岡大学サステナビリティセンター

担当者 学務部地域連携推進課

メールアドレス

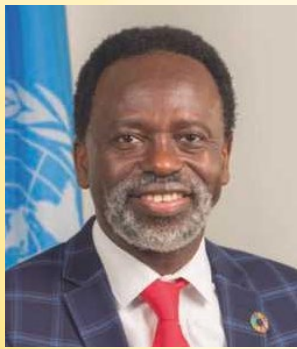
kyouiku-renkei@adb.shizuoka.ac.jp

会場についてのお問い合わせ先

担当者 静岡理工科大学 社会連携課

メールアドレス shakai@sist.ac.jp

AIとSDGs テクノロジーは 雇用と教育を どのように形作るのか



国連大学学長

チリツイ・マルワラ氏
Dr. Tshilidzi Marwala

2000年にケンブリッジ大学(英国)でAIと工学の分野で博士号を取得。AIの理論や、工学、社会科学、経済、政治、金融、医療へのAIの応用を研究している。

2023年3月1日に国際連合大学第7代目学長(国際連合事務次長)に就任。前職はヨハネスブルグ大学副学長(南アフリカ)。2023年8月より、国連事務総長が招集した科学諮問委員会メンバーを務めている。

2024年

4月18日(木)

14時30分~16時(14時受付開始)

開催
場所

SISTグループ 静岡駅前キャンパス4階
静岡市葵区御幸町20番地 M20

対象 SDGsやAIに関心のある方

定員 200名(申し込み多数の場合は先着順)

事前申込

QRコードまたは以下のURLから4月15日(月)までにお申込みください。

URL: <https://forms.office.com/r/T75xYwyVUh>



講演会に関すること

静岡大学サステナビリティセンター

E-mail: kyouiku-renkei@adb.shizuoka.ac.jp

お問合せ

会場に関すること

静岡理科大学 社会連携課

E-mail: shakai@sist.ac.jp

主催 静岡大学・静岡理科大学

参加費無料

日本語対応

■ アクセスマップ





チリツィ・マルワラ

国際連合大学学長・国際連合事務次長

チリツィ・マルワラ教授は2023年3月1日に国際連合大学の第7代目学長に就任いたしました。任期中は国際連合事務次長の役職に就きます。

マルワラ教授は2018年1月より、ヨハネスブルグ大学(南アフリカ)において、副学長兼第一校長を務めてきました。彼の指導のもと、アフリカ諸国による持続可能な開発目標(SDGs)達成を支援するためのソリューションを活用すべく、同大学は第4次産業革命における立ち位置を確立しました。マルワラ教授は過去にヨハネスブルグ大学の研究・国際化担当副学長補佐(2013-2017年)と工学・構築環境学部長(2009-2013年)を務めました。

2003年から2008年にかけて、ウィットウォーターズランド大学(南アフリカ)で准教授、後に教授を務めました。同時期に、カールアンドエミリーフックス財団のシステム・制御工学チェアや、南アフリカ・リサーチ・チェア・イニシアチブ(SARChI)のシステム工学チェアに在任しました。2001年から2003年にかけて、サウス・アフリカン・ブルワリーズ社で技術ディレクター補佐を務め、2000年から2001年まで、インペリアルカレッジ(英国、当時はロンドン大学の一部)で博士研究員を務めました。

また、ハーバード大学(米国)やカリフォルニア大学バークレー校(米国)、ケンブリッジ大学ウルフソン・カレッジ(英国)、南京工業大学(中国)、中南大学(中国)、ステレンボッシュ高等研究所(南アフリカ)で客員研究員や客員教授を務めました。

マルワラ教授は学術や政策分野でのキャリアが長く、これまでに数々の管理職をこなし、豊富な国際経験も有します。教授が従事してきた研究は学際的な内容であり、AIの理論や、工学、社会科学、経済、政治、金融そして医療へのAIの応用が含まれます。マルワラ教授は登録を受けたプロフェSSIONナルエンジニア(PE)であり、5つの特許を取得しています。

2000年にケンブリッジ大学(英国)でAIと工学の分野で博士号を取得し、1997年にプレトリア大(南アフリカ)で機械工学の修士号を取得、1995年にケース・ウェスタン・リザーブ大学(米国)で機械工学の理学士号を取得しました。また、コロンビア・ビジネススクールのアドバンスド・マネジメント・プログラム(AMP)や、ハーバード・ビジネススクールのリーダーシップ開発プログラムを修了しています。

マルワラ教授はアメリカ芸術科学アカデミーに所属しているほか、世界科学アカデミー(TWAS)、南アフリカ科学アカデミー、アフリカ科学アカデミー、南アフリカ工学アカデミーなどにフェローとして所属し、電気電子学会(IEEE)のシニアフェローや計算機協会(ACM)の特別会員を務めています。また、第4次産業革命に関する南アフリカ大統領諮問委員会など、さまざまな世界レベルや国家レベルの政策団体に参加してきました。マルワラ教授はまた、ユネスコ、ユニセフ、WHOやWIPOなどの機関を通じ、国連と協力してきました。

マルワラ教授はこれまでに20冊以上もの書籍を著し、直近では「Leadership Lessons from Books I Read(本が教えてくれたリーダーシップの教訓)」(2021年)や「Closing the Gap: The Fourth Industrial Revolution in Africa(差を縮める:アフリカにおける第4次産業革命)」(2020年)を出版しました。また、何十件もの書籍へのチャプター寄稿や、ジャーナル論文、会議論文の執筆を行い、200件以上もの雑誌記事や新聞寄稿を提供してきました。

マルワラ教授は数々の受賞経験があり、南アフリカの最高栄誉であるマブングブエ勲章を授与されたほか、南アフリカ科学アカデミーの「社会のための科学(Science-for-Society)」金賞を受賞し、南アフリカ情報技術専門家協会(IITPSA)によって2021年のITパーソナリティ・オブ・ザ・イヤーに選ばれました。

2023年8月より、国際連合事務総長が新設した科学諮問委員会のメンバーを務めています。

マルワラ学長や国連大学の詳細については、国連大学のホームページをご覧ください: jp.unu.edu.



UNU